

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902041		
法人名	株式会社ケアクオリティ北海道		
事業所名	グループホームななかまど		
所在地	北海道旭川市緑町19丁目2656-1		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&JievosvoCd=0172902041-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の認知症の症状が重度化しても、できることやわかることに注視して変わらず生活できるように努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路や商業施設にほど近い距離にありながらも静かな住宅地に位置している開設15年目を迎える2ユニットの事業所です。共用空間はリビングダイニングルームの他、セミパブリックのスペースを設け居場所への配慮があり、トイレの個数が多く居室に近い場所で利用できるよう環境を整えています。コロナ禍で地域との交流は自粛や中止となっていますが、例年ななかまど祭りには近隣住民を招待し、おでんや焼き鳥などの飲食の他、子どもよさこいやカラオケ大会が催され賑わっています。外部との交流や外出が難しい現在は、テレビYouTubeを活用し作業療法士による体操教室で身体を動かしたり、昭和歌謡や演歌などを聴きながら一緒に歌うなど、利用者の身体機能低下を予防する取り組みが行われています。車椅子の自走やトイレ排泄で着衣の上げ下げが難しかった方が一部介助を支援に盛り込んだ結果自立したケースや強い言葉や歩き回り等落ち着かなかった方が食事の手伝いなど役割を担った事で気分転換となった事例があり、本人の生活を支える介護計画も優れており、家族からの感謝の言葉や評価も高い状況です。介護プロフェッショナルキャリア段位制度の実施や社会保険労務士と連携した運営、ターミナルケアの実践も特筆の点です。代表者、管理者、職員が丸となり、利用者の生活を支えている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2/3の職員は理念を共有し、実践している	理念は重要事項説明書やパンフレットに明示し、共用空間の要所へ掲示しています。新型コロナウイルス感染防止に係る繁忙や職員の入れ替わりなどに当たり、基本理念の浸透や意識づけにおいて課題と感じています。	理念の共有化の方策として普段の支援の中で活かされる事を確認し、職員1人ひとりの更なる意識づけとなるよう取り組む考えを示していますので、実践に期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方が習字教室を開催していたが、コロナウイルス以降は中止となっている	地域との交流が中止や自粛となっていますが、例年、ななかまど祭りに地域の方々を招待したり、ボランティアによる習字教室や毎週詩吟教室に通う利用者がいます。町内会より敬老のお祝い物も届けられています。今後は中学校の職場体験の受け入れを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域の入居相談以外は貢献してできていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催にて、町内会や地域包括委員会の方に参加いただき、意見をいただいている	今年度は6月から書面会議にて開催し、新型コロナウイルスの対策、面会態勢、職員配置の現状等を報告しています。案内・議事録は家族や関係者へ送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当部署に相談しながら、サービスの提供や運営に生かしている	管理者が市の担当窓口に出向き、案件について相談し意見を仰いでいます。加算体制や職員の就労に関する事案など担当者からの実直な対応や新型コロナウイルス感染拡大防止に係る支援メールや助成などが得られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、そのリスクや行わないためのケア方法の構築の努力を行っている	身体拘束適正化のための指針を定め、3ヶ月に1度身体拘束委員会を開催して現状の検討や不適切ケアの防止を確認しています。また、内部研修を年2回行い、虐待・身体拘束の資料に基づく学びや身体拘束廃止のための5つの指針を共有しています。夜間帯のみ玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、日常でのケアで不適切な対応がないか職員が互いに注意できるように推奨している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護を受けている利用者を受け入れていることから、その制度の勉強や、必要があれば成年後見人制度の案内などもご家族へ行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の説明の他、改定の際は各ご家族に説明の上、同意書をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にてクレーム対応を行う機関の紹介の他、ご家族からの直接意見を運営に反映させている	利用者の要望には出来る限り対応し、1人外出の要望が出された場合でも最初から無理とせず本人の状態像を評価するなどして検討する姿勢となっています。家族からの相談事には意向を聞いて対応し、リモート面会では事業所の通信機器を用いるなど家族の利便に即すよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者が職員と直接コミュニケーションをとり、意見を集約している	管理者は日常のコミュニケーションの中で、職員が意見を言いやすい環境を心掛けています。年2回及び必要時に社会保険労務士による職員面談が実施されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不足の状態が続いているが、個々の職員の評価を行い、給与水準の見直しや職場環境の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の他、日常のケアでの育成にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道認知症グループホーム協会の会合に参加し、他事業所の取り組みなどの情報収集を行っている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人の意向や不安に思っていることをその都度聞きながら、施設での生活に馴れるための支援を行なっている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の意向を聞き取り、ケアに実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に集めた情報から支援内容を検討し、本人とご家族に説明の上ケアを行う		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りなどの作業を利用者に行っていたが、生活に参加していただくように努めている。しかし、利用者の認知症が重度化して来ており、頻度は高くない		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人の状態を理解していただき、必要なことは協力していただけるようお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人への面会などがあれば対応しているが、コロナウイルスの感染予防の為、電話のみの対応になっている	現在は馴染みの方々の訪問を受け付けていませんが、昨年度は友人や信仰する宗教の方が訪れたり、家族宅への一時帰宅や外泊、墓参りや法事など家族と過ごす機会をサポートしていました。飼い猫を連れ入居した利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりが持てるような支援の他、相性による関係などにも配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、契約終了以降もご相談にのるが、現状はない		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の意向を聞き取り、支援内容に生かしている	居室訪問時や夜間などでもゆっくり利用者の話に耳を傾け、本人が他者を気にせずに本音話してもらえるようにしています。意向の表出が難しい方は家族からの情報や日常の表情などの観察により職員間で話し合い検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を聞き取り、できるだけ反映できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、有する力の把握を行い、必要なケア内容の検討を行い、実践している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うほか、職員一人一人がアセスメントを行なっている	計画作成前に本人・家族の意向を確認しています。職員によるアセスメントやモニタリングにより、新たな解決すべき課題の発見やニーズの分析がなされ、今後のより良いケアに繋がる具体的な介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に細かな変化などを記載するように指導し、実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば、他の社会資源の活用を検討を行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス以降、外出や地域の方の来設はない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医の受診の支援を行ない、ご家族の協力なども依頼しながら適切な医療を受けられるようにしている	協力医療機関による2週に1度の往診体制があり、歯科は通院受診及び必要時における往診の協力が得られています。看護職員を配置し健康管理支援を行っています。受診内容は個別の受診記録に記しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や状態については看護職員に相談しながら、必要な対応の検討、支援に生かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に情報の提供を行なっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご本人、ご家族の意思を確認し、ケア方針の検討、実践をしている。	契約書・重要事項説明書に重度化した場合における対応に係る指針を明示し同意を得ています。状態変化が見られた場合は主治医・家族と話し合いを持ち、意向や対応について確認しています。昨年度、今年度もターミナル支援に尽力されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の研修などは現状あまりできていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行なっている	令和2年12月に日中・火災想定での避難訓練を実施しており、次回3月に夜間想定での避難訓練を予定しています。近隣の飲食店より一時避難場所としての協力が得られています。災害に備えた備蓄品を確保しています。	災害時における利用者の様々な居場所を想定した避難のあり方、避難先における生活想定について対応方法を検討する意向ですので期待します。また、前回目標達成計画に示された停電や自然災害での対策についても引き続きの取り組み事項としていますので実施に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の声かけの仕方、コミュニケーションの取り方を気をつけている	利用者の尊厳と誇りを守る声かけとなるよう管理者が指導しており、来年度は内部研修にて接遇に関する学びの機会を持つ意向です。個人記録類は保管場所を取り決め管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の意思決定を尊重し、生活ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースをできる限り大切にして、必要があれば介入するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の生活歴や趣向の把握に努め、その人らしい身だしなみができるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嚥下状態により、食事形態を変えるなど食事を楽しめる工夫をしている。現状、片付けなどは一緒にできていない	その日の食事係の職員がバランスを考えて献立しています。おせち料理や恵方巻など季節の行事食や誕生会、敬老会での祝膳の提供、2ヶ月に1度の寿司職人による握り寿司が振る舞われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を毎日把握し、水分不足や食事量の不足の際は栄養補助飲料などの提供を行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行なっているが、毎食できていない方もいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を把握し、できる限りトイレでの排泄をできるように支援している	排泄状況をその都度介護記録に記し、温度版に転記して排泄に係る内容を把握しています。尿意や便意が感じられない方へは時間等によりトイレ誘導しています。利用開始後、オムツからリハビリパンツ、また布下着の着用が可能になった方がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の頻度を確認し、必要があれば便秘薬の処方の調整、内服の支援をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	現状、決まった入浴日に順番で入浴して頂いている。それでも拒否が強いなどの有る方は無理せず、時間をずらすなどの工夫をしている	ユニットにより入浴日の設定等の違いはありますが、基本的に昼食後の時間帯で1人週2回支援しており、時々利用者の希望にも添い柔軟に対応しています。湯船に浸かることが難しい方へは足浴で保温するなどしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に配慮し、休める時間を確保するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容の把握、服薬時の確認を行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣向や楽しみを把握し、支援できるよう努めているが、なかなか実践にいかせていない部分もある		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、外出の支援は利用者様の歩行の力の低下もあり行えていない	コロナ禍により外出が自粛されています。共用空間にてテレビ体操を行うなど、歩行力の低下予防に取り組んでいます。例年、花見や嵐山ドライブ、銀座商店街などに出かけています。来年度は敷地内にある菜園や庭への散歩など、日常的に外気に触れられるよう支援を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族や施設で行っている方がほとんどである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人とご家族や友人との電話や郵送物については取り継ぎ、関係が継続できるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを行なっている	共用空間は広く明るい造りで、ダイニング、ソファコーナーを設け、セミパブリックのスペースも確保し思い思いに過ごせる環境を整えています。空気清浄機付き加湿器やエアコンを設置して空調に配慮し、季節感ある装飾が施されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮した座席の配置をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ本人が使用されていた家具などの持ち込みをご家族にお願いしている	居室入り口には表札を掲げ、室内には防災カーテン、クローゼット、洗面台を備え付けています。馴染みの家具類や大切な品々が持ち込まれ、家族の写真等を飾っています。自室で音楽を聞いたり、読書をするなどの趣味毎や愛猫と一緒に安心して暮らせるためのサポートも行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室に表札をつけ、自室がわかるように配慮をしている		